

日独交流150周年独側オープニングでの伴野副大臣ご挨拶
(2010年10月16日、於・東京横浜ドイツ学園)

Guten Tag!

Ich liebe Deutschland. Ich liebe auch deutsches Bier.

Daher bin ich heute gern gekommen.

ピーパー・ドイツ連邦共和国外務省国務大臣,
シュタンツェル駐日大使,
林 横浜市長,
御列席の皆様

「日独交流150周年」の日本国内でのオープニング行事に際し、日本国政府を代表してご挨拶を申し上げます。

まず、遠路お越しになったピーパー独外務大臣に対し、心から「ヴィルコメン（歓迎）」と申し上げたいと思います。

万延元年（1861年）、当時の江戸で、我が国と、ドイツの前身であるプロイセンが修好通商条約を締結し、両国が外交関係を開設してから150年が経ちました。

その間、日独両国は、互いに対する敬意と親近の情を基礎に、相互に多くを学び、友好関係を育んで参りました。

今日、ドイツと言えば、我々日本人にとって、勤勉で優秀な国民と優れた技術に支えられた経済・技術大国として、あるいはベートーベンやゲーテを輩出した文化の国として、また日本サッカーの恩人クラマーの故郷として、さらには豊かな森と自然に恵まれた美しい国として、大変親しみを覚える国の一つです。ドイツ・ビールや、ソーセージなど、豊かな食文化へのファンも多いことでしょう。

さらに、20年前に再統一を実現し、様々な困難に直面しながらも、繁栄と東西の「心の壁」の克服に成功しつつあるドイツ国民に対し、多くの日本人は尊敬の念を抱いています。

一方、ドイツにおいても、我が国は戦後、ドイツと同じく奇跡的な復興を遂げた経済大国として、あるいは歌舞伎や浮世絵に代表されるような豊かな伝統文化を誇る国として、また最近ではマンガ・アニメに代表されるポップカルチャーや、ドイツでもブームとなっている日本食の故郷として、親しみと敬意をもたれていると承知しております。

こうした日独の親近と友好の情は、150年にわたる長い交流の歴史の中で、先人達がたゆまぬ交流の努力を続けてきたことの結果であり、「日独交流150周年」は、感謝の念をもってこうした努力を振り返る良い機会です。

そして同時に、急速に変貌する世界の中で、未来に向けて日独の協力や交流を深め、新たにしていける契機でもあります。

日独両国は、経済、政治、学術、文化、社会の幅広い分野で、普遍的価値を共有するパートナーとして緊密に協力していますが、まだまだ、交流をより活性化する余地があると思います。

例えば、日独の議員間において、より一層交流を深めていくことも重要です。私は、日独関係に格別の関心を有する一国会議員の立場からも、日独友好議員連盟の活動を活発に行っていくために、引き続き尽力していく考えです。

今般、日独交流150周年の名誉総裁に、日本側は皇太子殿下、ドイツ側はヴルフ大統領に御就任頂きました。これにより、日独交流150周年の成功裡の実施に向けた国を挙げての取り組みに、威信を与えて頂くものになったと考えます。

同時に、交流年は、様々なイベントを企画・運営し、あるいは支援して下さる多くの団体、個人の皆様に支えられて実現するものです。これら、日独交流150周年を支えてくださる全ての皆様に、心から感謝を申し上げたいと思います。

今後1年間を通じて、日独両国では様々な記念イベントが開催されますが、是非、多くの皆様に積極的に参加頂くと共に、それぞれのお立場から未来の日独関係を築いていくのだというお気持ちで、ご協力頂ければ幸いです。微力ながら、私も力を尽くす所存です。

ご静聴有り難うございました。

(了)